

【自立援助ホーム・自己評価】 個別評価基準 評価項目（全87項目）

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

【I-1-（1） 理念、基本方針が確立されている。】			
項目	評価	評価の着眼点	特記事項（評価の根拠）
I-1-（1）-① 理念が明文化されている。	1		
a) 法人の理念を明文化しており、法人の使命・役割を反映している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 理念が文書（事業計画等の法人・事業所内文書や広報誌、パンフレット等）に記載されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 理念から、法人が実施する福祉サービスの内容や特性を踏まえた法人の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	●社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会の理念 法人の定款変更に伴い理念の変更を行った。「地域のエンパワメントを育むことによりノーマリゼーション社会の具現化を図ることを目的とする」から「地域の福祉力を育み、誰もが社会の一員として包み支え合う社会を作り出すことを目的とする」に変更した。法人が発行している機関誌「くろーばー」第82号 2017新春号に掲載。周知を図る。 ●Ohanaの家の理念：自分のことを好きになろう。となりの人を好きになろう。みんなのことを好きになろう。いつも貴方を受け入れてくれる仲間がいる。Ohanaの家。 子どもたちと一緒に作った分かりやすい理念なので、職員全員が理解している、共有ルームに掲げてある。
b) 法人の理念を明文化しているが、法人の使命・役割の反映が十分ではない。			
c) 法人の理念を明文化していない。			
I-1-（1）-② 理念に基づく基本方針が明文化されている。	2		
a) 理念に基づく基本方針を明文化しており、その内容が適切である。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 基本方針が文書（事業計画等の法人・事業所内文書や広報誌、パンフレット等）に記載されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 基本方針は、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	毎年年度末に、年次報告を作成している。 ①平成28年度の振り返り ②平成29年度の基本方針 ③平成29年度の事業の重点項目 ポラ協、全職員が参加する全体会議で、各事業者が発表する。
b) 理念に基づく基本方針を明文化しているが、その内容が十分ではない。			
c) 理念に基づく基本方針を明文化していない。			
【I-1-（2） 理念や基本方針が周知されている。】			
I-1-（2）-① 理念や基本方針が職員に周知されている。	3		
a) 理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取り組みを行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 理念や基本方針を会議や研修において説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知を目的とした実践テーマを設定して会議等で討議の上で実行している。 <input checked="" type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取り組みを行っている。	今年度の振り返りや2017年度に向けた事業実施方針、重点実施項目等、今年度のOhanaの家の利用状況等を作成し、決済を頂く段階で、職員のミーティングで発表し、また、回覧等でも周知を図っている。 毎週開催するミーティングで、理念の沿った支援の大切さを確認し合っている。
b) 理念や基本方針を職員に配布しているが、理解を促すための取り組みが十分ではない。			
c) 理念や基本方針を職員に配布していない。			
I-1-（2）-② 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	4		
a) 理念や基本方針を利用者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取り組みを行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 理念や基本方針をわかりやすく説明した資料を作成する等、より理解しやすいような工夫を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 理念や基本方針を利用者会等で資料をもとに説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取り組みを行っている。	Ohanaの家のパンフレットのトップに理念が乗せてある。 Ohanaの家の共有ルームに理念が掲げてある。 利用者の入居時に、本人や家族にパンフレットや重要事項説明書で分かりやすく、丁寧に説明している。
b) 理念や基本方針を利用者等に配布しているが、理解を促すための取り組みが十分ではない。			
c) 理念や基本方針を利用者等に配布していない。			

I-2 事業計画の策定

【I-2-1 (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。】			
I-2-1 (1) -①	中・長期計画が策定されている。	5	<input checked="" type="checkbox"/> 理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 実施する福祉サービスの内容や、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成等の現状分析を行い、課題や問題点を明らかにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中・長期計画は、課題や問題点の解決に向けた具体的な内容になっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中・長期計画に基づく取り組みを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。
a)	経営や実施する福祉サービスに関する中・長期計画及び中・長期の収支計画を策定している。	○	<p>毎月1回開催される、運営委員会や全体会議で現在の運営状況や課題改善等を報告し、中・長期的プランを協議している。</p> <p>社会福祉法人に移行したことの最大の目的は、経営の安定性である。このことに鑑み、中・長期的な展望が欠かせない事であり、ボラ協本部で作成している。</p> <p>例えば、司法関係（補導委託、一時保護）の子どもたちを預かることで、名古屋高等裁判所と委託契約を結んだ。</p>
b)	経営や実施する福祉サービスに関する中・長期計画または中・長期の収支計画のどちらかを策定していない。		
c)	経営や、実施する福祉サービスに関する中・長期計画も中・長期の収支計画のどちらとも策定していない。		
【I-2-1 (2) 事業計画が適切に策定されている。】			
I-2-1 (2) -②	中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	6	<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画には、中・長期計画の内容を反映した各年度における事業内容が具体的に示されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は、実行可能かどうか、数値目標等を設定することによって実施状況の評価を行えるかどうかについて配慮がなされている。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。
a)	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容及び中・長期の収支計画の内容を反映して策定されている。	○	<p>社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会が毎年行う年次報告書で、事業報告並びに事業計画（案）の作成が義務化され、長期計画に基づいた事業計画となっている。</p> <p>毎年2月の末日に、ボラ協の全体会議が開催され、そこで各部署から事業報告と事業計画（案）が、参加した職員全員に説明される。理事長が、中・長期の計画を職員に発表する。</p>
b)	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容及び中・長期の収支計画の内容のどちらかのみを反映させている。		
c)	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容も中・長期の収支計画の内容も反映していない。		
【I-2-2 (1) 事業計画が適切に策定されている。】			
I-2-2 (2) -①	事業計画の策定が組織的に行われている。	7	<input checked="" type="checkbox"/> 年度終了時はもとより、年度途中にあっても、あらかじめ定められた時期、手順に基づいて事業計画の実施状況の把握、評価を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価の結果に基づいて各計画の見直しを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 一連の過程が一部の職員だけで行われていない。
a)	各計画が、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	○	<p>年3回以上開催される理事会や評議会で、A・B・C拠点の各事業の進捗状況や予算の執行状況を報告し承認を得ている。</p> <p>Ohanaの家では、毎週行われるミーティングで、事業の進捗状況等が報告され、職員から意見等を聞き出し見直しをしている。</p> <p>毎年、自己評価を行い、各項目（87項目）の評価に関して、きずきや改善を図っている。</p> <p>上記のように、職員全員が参加する場で、それぞれの意見等を聞き事業計画策定に繋げている。</p>
b)	各計画が、職員等の参画のもとで策定されているが、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われていない。		
c)	各計画が、職員等の参画のもとで策定されていない。		
I-2-2 (2) -②	事業計画が職員に周知されている。	8	<input checked="" type="checkbox"/> 各計画を会議や研修において説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 各計画をわかりやすく説明した資料を作成する等によって、より理解しやすいような工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 各計画の進捗状況を確認し、継続的な取り組みを行っている。
a)	各計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取り組みを行っている。	○	<p>事業計画は管理者指導の下で作成されるが、ミーティングで職員全員に回覧され、意見を求める体制になっている。</p> <p>各事業の進捗状況がミーティングで報告されているが、継続的にやれているかと聞かれると、やれていない部分がある。</p> <p>年次計画が職員の手元に配布されていて、総会で事業計画案の説明をしているが、全職員に周知については物足りないものがある。</p>
b)	各計画を職員に配布しているが、理解を促すための取り組みが十分ではない。		
c)	各計画を職員に配布していない。		
I-2-2 (2) -③	事業計画が利用者等に周知されている。	9	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者等向けに各計画をわかりやすく説明した資料を作成する等によって、より理解しやすいような工夫を行っている。 <input type="checkbox"/> 各計画を利用者等に説明している。
a)	各計画を利用者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取り組みを行っている。	○	<p>利用者には、事業計画を説明、周知はしていない。</p> <p>各事業については、その都度、利用者説明をして了解を得て進めている。</p> <p>クリスマス会や正月の小旅行、夏のバーベキュー大会、場う再訓練などは子どもたちの意見を聞きながら進めている。</p>
b)	各計画を利用者等に配布しているが、理解を促すための取り組みが十分ではない。		
c)	各計画を利用者等に配布していない。		

I-3 管理者の責任とリーダーシップ

【I-3-（1） 管理者の責任が明確にされている。】			
I-3-（1）-①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	10	<p>管理者は、自らの役割と責任について、文書化するとともに、会議や研修において表明している。</p> <p>管理者は、自らの役割と責任について、組織の広報誌等に掲載して表明している。</p> <p>☑ 平常時のみならず、有事における管理者の役割と責任について、明確化されている。</p>
a)	管理者は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、理解されるよう積極的に取り組んでいる。	○	
b)	管理者は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、理解されるよう取り組んでいるが、十分ではない。		
c)	管理者は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにしていない。		
I-3-（1）-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	11	<p>☑ 管理者は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。</p> <p>☑ 管理者は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、リスト化する等の取り組みを行っている。</p> <p>☑ 管理者は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取り組みを行っている。</p>
a)	管理者自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するために積極的な取り組みを行っている。	○	
b)	管理者自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っているが、十分ではない。		
c)	管理者自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みは行っていない。		
【I-3-（2） 管理者のリーダーシップが発揮されている。】			
I-3-（2）-①	質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。	12	<p>☑ 管理者は、実施する福祉サービスの質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。</p> <p>☑ 管理者は、福祉サービスの質の向上について、職員の意見を取り込めるための具体的な取り組みを行っている。</p> <p>☑ 管理者は、福祉サービスの質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取り組みを明示して指導力を発揮している。</p> <p>☑ 管理者は、福祉サービスの質の向上について組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>
a)	管理者は、実施する福祉サービスの質の向上に意欲を持ち、組織としての取り組みに十分な指導力を発揮している。	○	
b)	管理者は、実施する福祉サービスの質の向上に意欲を持ち、組織としての取り組みに指導力を発揮しているが十分ではない。		
c)	管理者は、実施する福祉サービスの質の向上に関する組織の取り組みについて指導力を発揮していない。		
I-3-（2）-②	経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。	13	<p>☑ 管理者は、経営や業務の効率化と改善に向けて、人事、労務、財務等の面から分析を行っている。</p> <p>☑ 管理者は、組織の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。</p> <p>☑ 管理者は、上記について、組織内に同様の意識を形成するための取り組みを行っている。</p> <p>☑ 管理者は、経営や業務の効率化や改善のために組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。</p>
a)	管理者は、経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに十分な指導力を発揮している。	○	
b)	管理者は、経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮しているが、十分ではない。		
c)	管理者は、経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みについて指導力を発揮していない。		

II 組織の運営管理

II-1 経営状況の把握

【II-1-1 (1) 経営環境の変化等に適切に対応している。】			
II-1-1 (1) -①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	14	
a)	事業経営をとりまく環境を的確に把握するための取り組みを積極的に行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者数・利用者像等について、施設が位置する地域での特徴・変化等を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 福祉サービスのニーズ、潜在的利用者に関するデータ等を収集している。 <input checked="" type="checkbox"/> 把握された情報やデータが、中・長期計画や各年度の事業計画に反映されている。
b)	事業経営をとりまく環境を的確に把握するための取り組みを行っているが、十分ではない。		
c)	事業経営をとりまく環境を把握するための取り組みを行っていない。		
II-1-1 (1) -②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	15	
a)	経営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取り組みを行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 定期的にサービスのコスト分析やサービス利用者の推移、利用率等の分析を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善に向けた取り組みが、中・長期計画や各年度の事業計画に反映されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。
b)	経営状況を分析して課題を発見する取り組みを行っているが、改善に向けた取り組みを行っていない。		
c)	経営状況を分析して課題を発見する取り組みを行っていない。		
II-1-1 (1) -③	外部監査が実施されている。	16	
a)	外部監査を実施しており、その結果に基づいた経営改善を実施している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査の結果や、公認会計士等による指導や指摘事項に基づいて、経営改善を実施している。
b)	外部監査を実施しているが、その結果に基づいた経営改善が十分ではない。		
c)	外部監査を実施していない。		

母体である社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会の財務関係から3ヶ月（四半期）ごとの収支の状況の説明があり、騎乗経営を取り巻く環境が整っている。

自立援助ホームは措置費（定員払い）の為、その年度の子どもの利用者の多少で経営は左右されない。が、来年は暫定定員（9人）が引かれるので、通年より更に踏み込んで経営について考えざるを得ない。

入居する時は、事前に子ども相談セッターと入念な打ち合わせをしている。また入居が決定したときは、入居する子どもの詳細なデータを取り寄せている。

子どもたちの生命の安全・安心を最優先に考え、少しでも楽しい生活が送れるように菜、環境づくりに心がけている。そのような中で平成29年度は暫定定員にされるので、管理者一同、経費節減に向けて今年度から、必要最小限にとどめる取り組みをしている。

H27.3月に社会福祉法人になったことで、一番の課題は経営の安定であることから、事業計画の中でも収支の状況を考えることになるので、今年度のミーティングでも議題にあげて協議している。

3ヶ月毎の収支状況の報告を公認会計士に見てもらっている。また、年1回の会計監査も受けている。

II-2 人材の確保・養成			
【II-2-（1） 人事管理の体制が整備されている。】			
II-2-（1）-① 必要の人材に関する具体的なプランが確立している。	17		現在、定員12人で運営している。職員の配置は資格取得者等、国の基準に沿って配置してある。
a) 組織が目標とする福祉サービスの質を確保するための、必要の人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 必要の人材や人員体制に関する基本的な考え方や、人事管理に関する方針が確立している。	今年度、2名の常勤職員が採用された。非常勤の人出辞めた人がいるが、10名の職員は、他の自立援助ホームと比して、相当余裕ある配置となっている。今年度、2名の常勤職員が増えた。
b) 組織が目標とする福祉サービスの質を確保するための、必要の人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しているが、それに基づいた人事管理が十分ではない。		<input checked="" type="checkbox"/> 社会福祉士等の有資格職員の配置等、必要の人材や人員体制について具体的なプランがある。	精神保健福祉司、心理士、社会福祉士、相談支援専門員等多彩な資格のある人材の配置がされている。
c) 組織が目標とする福祉サービスの質を確保するための、必要の人材や人員体制に関する具体的なプランが確立していない。		<input checked="" type="checkbox"/> プランに基づいた人事管理が実施されている。	O h a n a の家の採用については、経験等を重視し、子どもたちの日常生活や社会生活、就労の大切さ等を指導できる人材の獲得に努めている。
II-2-（1）-② 人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	18		人事については、母体である社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会が行う。ただし、O h a n a の家の人材確保については、管理者等の意見が反映されている。
a) 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課を実施している。		<input type="checkbox"/> 人事考課の目的や効果を正しく理解している。	人事考課制度を取り入れていない。また、個人（職員等）の評価についても十分でない。
b) 定期的な人事考課を実施しているが、客観的な基準に基づいて行われていない。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 考課基準を職員に明確に示すことや、結果の職員へのフィードバック等の具体的な方策によって客観性や透明性の確保が図られている。	毎月開催される、運営会議や全体会議で、人事の方針等の説明がある。
c) 定期的な人事考課を実施していない。			
【II-2-（2） 職員の就業状況に配慮がなされている。】			
II-2-（2）-① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	19		出勤簿で、働く日数・時間等きちんと把握している。有給についても勤務表で、把握し無理をしていないか等、適切に休暇を取るようにはない段階で指導している。
a) 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善する仕組みが構築されている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や就業状況チェックの結果を、分析・検討する担当者や担当部署等を設置している。	勤務表作成者が、休暇（有休を含む）を管理しており、勤務者の状況で休暇を取るよう指導している。
b) 職員の就業状況や意向を定期的に把握する仕組みはあるが、改善する仕組みの構築が十分ではない。		<input checked="" type="checkbox"/> 分析した結果について、改善策を検討する仕組みがある。	年間の研修計画に基づいて研修を受講している。また急な研修の受講についてもできる限り、順番に参加させている。その都度勤務表の見直しを行っている。
c) 職員の就業状況や意向を把握する仕組みがない。		<input checked="" type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的なプランに反映し実行している。	管理者が心理士の資格があり、困っている職員があれば、いつでもカウンセリングはやれる。本年度、精神福祉保健師を採用して、職員の相談支援を行っている。
		<input checked="" type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面接の機会を設ける等、職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。	
		<input checked="" type="checkbox"/> 希望があれば職員が相談できるように、カウンセラーや専門家と連携している。	
II-2-（2）-② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	20		福利厚生については、まだまだ、十分とは言えない。
a) 職員の福利厚生や健康を維持するための取り組みを実施している。		<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、福利厚生センターへの加入等、総合的な福利厚生事業を実施している。	子どもたちは限りなく自由にさせており、健康面や衛生面については指導をするが、あとのことは本児たちに任せてある。
b) 職員の福利厚生や健康を維持するための取り組みをしているが、十分ではない。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の悩み相談窓口を組織に設置し、解決に向けた体制が整備されている。	職員の健康診断は、毎年実施している。また、職員は365日 24時間 O h a n a の家はフル稼働しており、早番、遅番、夜勤等の勤務体制があり、勤務が偏らないよう、また、休暇などにも配慮している。
c) 職員の福利厚生や健康を維持するための取り組みを実施していない。			健康管理について、休暇などは本人に任せている

【Ⅱ－２－（３） 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。】				
Ⅱ－２－（３）－①	職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	21		
a)	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 組織が目指す福祉サービスを実施するために、基本方針や中・長期計画の中に、組織が職員に求める基本的姿勢や意識を明示している。	開設して5年になる。その間、全国自立援助ホーム協議会の研修に参加、女性スタッフ研修等様々な研修に職員が順番で参加して、技術の向上に努めている。現在では東海地区で自立援助ホームを開設する事業所に内覧会に参加し、O h a n a のノウハウを伝える役目をしている。 司法に関わる子どもを（自立準備ホーム、補導委託、一時保護）預かっており、社会的養護、少年院法改正等、幅広い方面での研修や講習会に参加しスキルアップを図っている。
b)	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されているが、十分ではない。		<input checked="" type="checkbox"/> 現在実施している福祉サービスの内容や目標を踏まえて、基本方針や中・長期計画の中に、組織が職員に求める専門技術や専門資格を明示している。	
c)	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されていない。			
Ⅱ－２－（３）－②	個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され、計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	22		
a)	職員一人ひとりについて、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され、計画に基づいた具体的な取り組みが行われている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 職員一人ひとりについて、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 個別の職員の技術水準、知識、専門資格の必要性等を把握している。	職員のスキルアップについては、計画的に研修の受講をし、報告会や復命書で他の職員へ共有化を実施している。 研修計画により、同じ人ばかり研修が偏ることがないように実行している。
b)	職員一人ひとりについて、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定されているが、計画に基づいた具体的な取り組みが十分に行われていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画に基づき、実際に計画に従った教育・研修が実施されている。	
c)	職員一人ひとりについて、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定されていない。			
Ⅱ－２－（３）－③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	23		
a)	研修成果の評価が定期的に行われるとともに、次の研修計画に反映されている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 研修を終了した職員は、報告レポートを作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 研修を終了した職員が、研修内容を発表する機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 報告レポートや発表、当該職員の研修後の業務等によって、研修成果に関する評価・分析を行っている。	研修規程が定めてあり、マニュアル化されている。 その様式に沿って、研修参加申し込みの決裁や復命書、報告書等作成し、側近のミーティングで報告することになっている。 研修機会が非常に多く、研修会案内のチラシが掲示板に張ってある。内容等を見て参加したい人は申し出ることになっている。 全国自立援助ホーム連絡会とか女性スタッフ会議とは職員の順番通りに参加している。
b)	研修成果の評価が定期的に行われているが、次の研修計画に反映されていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 評価・分析された結果を次の研修計画に反映している。	
c)	研修成果の評価が定期的に行われていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 評価・分析された結果に基づいて、研修内容やカリキュラムの見直しを行っている。	
Ⅱ－２－（３）－④	職員に対して、遵守すべき法令等を正しく理解するために研修を行っている。	24		
a)	職員に対して、遵守すべき法令等を正しく理解するために積極的な研修を行っている。		<input type="checkbox"/> 遵守すべき法令等を正しく理解するための研修計画が策定されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 組織として遵守しなければならない基本的な関連法令や最新の内容がリスト化されている。	遵守すべき法令等（児童福祉法、社会福祉法、社会的養護、児童虐待防止法等）の法令集が樽武士化置いていない。改正保については、その都度理事長がメールで送ってくる。 遵守すべき法令等を理解するための、具体的な取り組みはしていない。 職員はパソコンで自分のあいている時間に、法令数を空けて勉強している。 子dもたちに関わる事件等で、その都度法令触れることは、ミーティングで管理者が説明している。
b)	職員に対して、遵守すべき法令等を正しく理解するための研修計画は策定されているが、計画に基づいた具体的な取り組みが十分に行われていない。	○	<input type="checkbox"/> 職員に対して、遵守すべき法令等を正しく理解するための具体的な取り組みを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 研修は、管理者自らが行う研修の他、内部の勉強会や外部講師を招いた研修等、有効と思われる研修形態の導入に努めている。	
c)	職員に対して、遵守すべき法令等を正しく理解するための研修は行っていない。			

【Ⅱ－２－（４） 実習生の受け入れが適切に行われている。】			
Ⅱ－２－（４）－①	実習生の受け入れと育成について基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、積極的な取り組みをしている。	25	<input checked="" type="checkbox"/> 実習生の受け入れに関する基本姿勢を明文化している。 <input checked="" type="checkbox"/> 実習生の受け入れについて、受け入れについての連絡窓口、事前説明、オリエンテーションの実施方法等の項目が記載されたマニュアルが整備されている。
a)	実習生の受け入れと育成について基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等、積極的な取り組みを実施している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 受け入れにあたっては、学校との覚書を取り交わす等によって、実習における責任体制を明確にしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 実習指導者に対する研修を実施している。
b)	実習生の受け入れと育成について体制を整備してはいるが、効果的な育成プログラムが用意されていない等、積極的な取り組みには至っていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 実習内容全般を計画的に学べるようなプログラムを用意している。 <input checked="" type="checkbox"/> 学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。
c)	実習生の受け入れと育成について体制を整備しておらず、実習生を受け入れていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 実習の種類に配慮したプログラムを用意している。
<p>母体である障害者総合施設の社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会には実習生を受け入れる基本体制が明文化されている。実際に多くの実習生を受け入れている。</p> <p>Ohanaの家はそれぞれ事情のある子どもたちで、Ohanaの家のパンフレットにも電話番号等を伏せてあることから、実習生の受け入れはやっていない。</p>			
Ⅱ－３ 安全管理			
【Ⅱ－３－（１） 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。】			
Ⅱ－３－（１）－①	緊急時（事故、感染症の発生時など）における利用者の安全確保のための体制が整備されている。	26	<input checked="" type="checkbox"/> 管理者は利用者の安全確保の取り組みについて、リーダーシップを発揮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の安全確保に関する担当者を設置している。
a)	事故、感染症の発生時などの緊急時に、利用者の安全確保のために、組織として体制を整備し機能している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に安全確保に関する検討会を開催している。 <input checked="" type="checkbox"/> 検討会には、現場の職員が参加している。
b)	事故、感染症の発生時などの緊急時に、利用者の安全確保のために、組織として体制を整備しているが、十分に機能していない。		<input checked="" type="checkbox"/> リスクの種類別に、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 事故発生対応マニュアル等を作成し職員に周知している。
c)	事故、感染症の発生時などの緊急時に、利用者の安全確保のために、組織として体制を整備していない。		
<p>管理者は、子どもたちの安全、安心を最優先に考えており、子どもに何かあった時の緊急連絡網や関係機関等への通報が出来るように整備、体制ができています。</p> <p>危機管理マニュアル①（地震、災害、水害、事故等）危機管理マニュアル②（不審者・面会人の対応）が作成されている。</p> <p>特にOhanaの家は女兒なので、性交渉等についての指導は強く行っている。感染症にかかったときは、直ちに産婦人科に連れて行く。</p> <p>365日 24時間職員が配置されているので、事故や事件、病気など緊急な場合でもすぐに対処できる体制にある。</p> <p>食事についても特に注意を払っており、昨日の残った食事は、子どもたちに食べさせない。</p>			
Ⅱ－３－（１）－②	災害時に対する利用者の安全確保のための取り組みを行っている。	27	<input checked="" type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類の必要な対策を講じている。 <input checked="" type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。
a)	地震、津波、大雪などの災害に対して、利用者の安全確保のための取り組みを積極的に行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者及び職員の安否確認の方法が決められ、全職員に周知されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 食料や備品類などの備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。
b)	地震、津波、大雪などの災害に対して、利用者の安全確保のための取り組みを行っているが、十分ではない。		<input checked="" type="checkbox"/> 地元の消防署、警察、自治会など連携するなど工夫して訓練を実施している。
c)	地震、津波、大雪などの災害に対して、利用者の安全確保のための取り組みを行っていない。		
<p>年2回、消防署の立ち合いで、消防訓練、災害訓練等、地域住民の参加を得て総合訓練を実施している。</p> <p>BCPを率先して実施し、定期的な訓練や、災害に対処する見直しなど会議に参加している。</p> <p>Ohanaの家で毎月、防災に関する訓練を職員が実施している。消火訓練、緊急連絡の訓練、避難誘導訓練、担架輸送の訓練</p> <p>食料や水等災害に備えて3日間の備蓄がある。</p>			
Ⅱ－３－（１）－③	災害等の発生時における防災体制が整備されされている。	28	<input checked="" type="checkbox"/> 地域の警察、消防、ボランティアセンター等並びに自治組織、民生委員、福祉委員等との連絡体制が図られている。 <input checked="" type="checkbox"/> 災害発生時の対応マニュアルが整備され、利用者、職員等に周知されている。
a)	利用者の安全確保のために地域における連携のとれた防災体制が整っており、定期的な避難訓練等を実施している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 地域の実情（山間部、海岸部等）に応じた災害を想定し、マニュアルを整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> マニュアルに基づく定期的な防災訓練を実施している。
b)	利用者の安全確保のために地域における連携のとれた防災体制が整っているが、定期的な避難訓練等を実施していない。		
c)	利用者の安全確保のための地域における連携のとれた防災体制が整っていない。		
<p>BCPの会議を定期的開催し、災害時のマニュアルを作成中である。防災体制はマニュアルの中でもトップに掲げている。</p> <p>危機管理マニュアル① ②が整備している。マニュアルの沿った訓練を重ねている。</p> <p>子どもたちは働いているので、また、休日は寝たいなど、訓練に参加することが少ないが、今後もっと、防災の大切さを教え、参加を促したい。</p>			

II-3-(1)-④	利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	29	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の安全を脅かす事例の収集を、その仕組みを整備した上で実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 収集した事例について、職員の参画のもとで発生要因を分析し、未然防止策を検討している。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	利用者の安全確保に、防犯カメラを設置して外部の侵入者等のチェックをしている。(この防犯カメラで、健康促進住宅はしま1号棟に入った泥棒をの逮捕に協力できた。) Ohanaの家の出入り口を1か所にして安全を図っている。 他の施設で起こった事件や、Ohanaの家での事件等は、お知らせと言う形で子どもたちに理解と周知を図るようにしている。 事件や事故等、新聞の切り抜きやPCからの印刷など、ミーティングで事例の原因等や与える影響等を話し合っている。
a)	利用者の安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い実行している。	○		
b)	利用者の安全を脅かす事例を組織として収集しているが、要因分析と対応策の検討が十分ではない。			
c)	利用者の安全を脅かす事例を組織として収集していない。			

II-4 地域との交流と連携

【II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。】				
II-4-(1)-①	利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	30	<input checked="" type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。 <input checked="" type="checkbox"/> 活用できる社会資源や地域の情報を収集し、掲示板の利用等で利用者に提供している。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者が地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが援助を行う体制が整っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所や利用者への理解を得るために、地域の人々と利用者との交流の機会を定期的に設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の利用者のニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	毎月行われている、地域の自治会に参加している。監事の役をもらっている。 毎月実施する地域の清掃(草刈りが多い)参加している。 防災の総合訓練を地域の住民と一緒に実施している。 近くにある保育園の園児たちがOhanaの中庭でコオロギやバッタを取りに来る。。子供会の祭りの神輿がわざわざ施設に寄ってくる。 掲示板に母体である、社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会の行事を掲示して。
a)	利用者と地域との交流を広げるための地域への働きかけを積極的に行っている。	○		
b)	利用者と地域との交流を広げるための地域への働きかけを行っているが、十分ではない。			
c)	利用者と地域との交流を広げるための地域への働きかけを行っていない。			

II-4-(1)-②	事業所が有する機能を地域に還元している。	31	<input checked="" type="checkbox"/> 専門的な技術講習会や研修会、地域住民の生活に役立つ講演会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 相談窓口、支援サークル等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、事業所で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	集会室を建物の一室に整備して、交流の場や自治会の役員会の開催などに利用してもらっている。 敷地内の出入り口に自販機を設置している。地域の農業を行っている人がひと休みするときに自販機を利用してくれる。また、お孫さんを連れてジュースを買いに来るおばあさんたちが多い。 施設の中庭に、バーベキューを楽しめる設備がしており、地域住民に開放している。
a)	施設が有する機能を、地域に開放・提供する取り組みを積極的に行っている。	○		
b)	施設が有する機能を、地域に開放・提供する取り組みを行っているが、十分ではない。			
c)	施設が有する機能を、地域に開放・提供する取り組みを行っていない。			
II-4-(1)-③	ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	32		
a)	ボランティア受け入れに対する基本姿勢が明示されており、受け入れについての体制が整備されている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明文化している。 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア受け入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	母体である社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会は、ボランティア活動が主で、NPO法人を立ち上げ、更に社会福祉法人へと移管した経緯があり、ボランティアの受け入れについては、本業であり、基本的に体制は出来ているし、現実的に受入を行っている。
b)	ボランティア受け入れに対する基本姿勢が明示されているが、受け入れについての体制が十分に整備されていない。		<input checked="" type="checkbox"/> ボランティアに対して必要な研修を行っている。	自立援助ホームは入居して来る子どもたちは、関係者以外に居場所を公にしないこと等、Ohanaの家自体、ボランティアの受け入れについては慎重を期している。
c)	ボランティア受け入れに対する基本姿勢が明示されていない。			
【II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。】				
II-4-(2)-①	必要な社会資源を明確にしている。	33		
a)	事業所の役割や機能を達成するために必要となる、関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報が職員間で共有されている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 個々の利用者の状況に対応できる社会資源を明示し、当該地域の関係機関・団体について、その機関・団体との連携の必要性を含めたリストや資料を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員会議で説明する等職員間で情報の共有化が図られている。	子どもたちは、今まで自分が育った所から、全く知らない土地に来るので、地域のコンビニやスーパー、転出、転入届の市役所、患った時に行く医者及び図書館、郵便局、最寄りの駅、バス停、総合グラウンドなどの社会資源を地図や車で案内するなど、最初に教えている。
b)	事業所の役割や機能を達成するために必要となる、関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示しているが、その情報が職員間で共有されていない。			子どもたちは、入居して1週間以内には働きに出るので、ひとり一人にあった職場を斡旋する等、企業や事業所などの社会資源は把握している。
c)	事業所の役割や機能を達成するために必要となる、関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示していない。			
II-4-(2)-②	関係機関等との連携が適切に行われている。	34	<input checked="" type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取り組みを積極的に行っている。	各子相、県子ども家庭課、児童養護施設、岐阜家裁、名古屋家裁、金沢家裁、愛知県の子相相談所、羽島市、岐阜市、名古屋、春日井、小牧、豊橋、東三河等の行政機関等々の連携はとれており、特に子どもたちの近況報告等、連絡は密にしている。
a)	関係機関・団体と定期的な連携の機会を確保し、具体的な課題や事例検討を行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	また、定期的に開催される自立援助ホームと各子相の連絡会議には、必ず複数の職員が参加をしている。
b)	関係機関・団体と定期的な連携の機会を確保しているが、具体的な課題や事例検討は行っていない。			措置費の報告で、毎月の利用状況など、同じ内容を書く子相に報告している。
c)	関係機関・団体と定期的な連携の機会を確保していない。			

【Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。】			
Ⅱ-4-(3)-①	地域の福祉ニーズを把握している。	35	
a)	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取り組みを積極的に行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携に基づき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催する等によって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 常日頃から地域住民との交流を通して、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。
b)	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取り組みを行っているが、十分ではない。		
c)	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取り組みを行っていない。		
Ⅱ-4-(3)-②	地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	36	
a)	把握した福祉ニーズに基づいた事業・活動の計画があり、実施されている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズに基づいて実施した具体的な事業・活動がある。 <input checked="" type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズに基づいた具体的な事業・活動を、中・長期計画や事業計画の中に明示している。
b)	把握した福祉ニーズに基づいた事業・活動の計画があるが、実施されていない。		
c)	把握した福祉ニーズに基づいた、事業・活動の計画がない。		
社福 岐阜羽島ボランティア協会の 理事長が国や県の社会福祉情勢に長けていて、様々な最新の福祉情報を提供してくれる、 職員に民生委員があり、地域の福祉ニーズや小学校、中学校の状況など情報の提供がある。 毎週、福祉新聞をとっており、社会福祉法の改正や生活困窮者自立支援法、少年院法の改正など社会福祉の記事をみて、ニーズに反映させている。 司法福祉の関連性が広まる中、触法少年の受け入れに力を注いでいる。 自立準備ホーム、補導委託、一時保護等 地域のニーズの把握は、各子相、県の子ども家庭課、障害福祉課、児童養護施設等の連絡会議棟で情報を収集している。 全国自立援助ホーム協議会・同じく全国自立援助ホーム会長会、女性スタッフ会議等に必ず参加している。また他の自立援助ホームのホーム新聞等で実際に行っている事例などを見聞きし、スタッフで議論している。 現在、20カ所ほどの自立援助ホームとの交流をしている。			

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

【Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。】			
Ⅲ-1-(1)-①	利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	37	
a)	利用者を尊重したサービス提供についての基本姿勢が明示され、組織内で共通の理解を持つための取り組みが行われている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 理念や基本方針に、利用者を尊重した福祉サービスの実施について明示している。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者を尊重したサービス提供に関する基本姿勢が、個々のサービスの標準的な実施方法等に反映されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者尊重や基本的人権への配慮について、組織で勉強会・研修を実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 虐待防止について職員に周知徹底している。
b)	利用者を尊重したサービス提供についての基本姿勢は明示されているが、組織内で共通の理解を持つための取り組みは行っていない。		
c)	利用者を尊重したサービス提供についての基本姿勢が明示されていない。		
Ⅲ-1-(1)-②	利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	38	
a)	利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取り組みを行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のプライバシー保護について、規程・マニュアル等の整備や、施設・設備面での工夫等、組織として具体的に取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者のプライバシー保護に関する基本的知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・意識、利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 規程・マニュアル等に基づいたサービスが実施されている。
b)	利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備しているが、職員に周知する取り組みが十分ではない。		
c)	利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備していない。		
職員は、利用者本位、人権の尊重、子どもたちの最善の利益の優先等が自分たちの一番優先するモットーとしており、Ohanaの家の理念に沿った支援を続けている。 また、ミーティングでも、常に利用者本位について話し合いながら、常に子どもたちを優先に考えた支援を心がけている。 誕生日会、正月2日の旅行、クリスマス等、子どもたちが喜ぶイベントを一緒に考え、子どもたちの意見を取り入れたものを実行できている。 社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会（母体）の個人情報保護に関する規程に沿って日々の支援をしている。 利用者に鍵のかかる個室を提供しており、部屋に入るときは、本人の許可を得ている。 プライバシーについては、常に子どもたちを最優先に考え、子どもたちに安全と安心を与えている。 相談室は、プライバシーを考えてその場面々々に応じた部屋を用意することができる。			

【Ⅲ-1-(2) 利用者満足の上昇に努めている。】			
Ⅲ-1-(2)-①	利用者満足の上昇を意図した仕組みを整備し、取り組みを行っている。	39	
a)	利用者満足を把握する仕組みを整備し、利用者満足の結果を踏まえて、その向上に向けた取り組みを行っている。		<input type="checkbox"/> 利用者満足に関する調査を定期的に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者満足を把握する目的で、利用者への個別の相談面接や聴取を定期的に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者満足に関する調査の担当者・担当部署の設置や、把握した結果を分析・検討するために、利用者参画のもとで検討会議の設置等が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 分析・検討の結果に基づいて具体的な改善を行っている。
b)	利用者満足を把握する仕組みを整備し、利用者満足の結果を把握しているが、その向上に向けた取り組みが十分でない。	○	
c)	利用者満足を把握するための仕組みが整備されていない。		
<p>満足度調査は実施したこともあるが、定期的にはやっていない。</p> <p>退居した子どもが、Ohanaの家は良かったと言ってくれることが一番嬉しい。(それが職員にとっての評価だと思っている。)</p> <p>また、保護観察でOhanaの家に入った子どもが措置解除後もOhanaの家に居たいと言ってくれた。</p> <p>退居児童40人のアフターケアを十分に行っている。成人式の為の着物の着付け、写真、アルバムの提供等。</p> <p>毎年8月第1土曜日にOBだけのバーベキュー大会を行っている。</p>			
【Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。】			
Ⅲ-1-(3)-①	利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	40	
a)	利用者が相談したり意見を述べたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境が整備され、そのことを利用者に伝えるための取り組みが行われている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者が、複数の相談方法や相談相手の中から自由に選べることを、わかりやすく説明した文書を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者等に、その文書を配布したり、わかりやすい場所に掲示している。 <input checked="" type="checkbox"/> 相談や意見を述べやすいようなスペースに配慮している。
b)	利用者が相談したり意見を述べたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境が整備されているが、そのことを利用者に伝えるための取り組みが十分ではない。		
c)	利用者が相談したり意見を述べたい時に、相談方法や相談相手を選択できない。		
<p>社福 ポラ協で福祉向上サービス委員会が設置されて、相談のことや職員の対応、支援方法、悩みについて進路や将来、人間関係等の関わり等Ohana日々取り扱った件数を、月末にポラ協本部に報告している。</p> <p>苦情については、相談窓口や第三者委員会なども設置して、誰でも苦情や相談ができる体制が出来ている。(今まで第三者委員会が開催されたことはない。)</p> <p>出された苦情や意見は、直近のミーティングで職員が話し合い、解決策を出し、直ぐやれるものはやる様にしている。</p>			
Ⅲ-1-(3)-②	苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	41	
a)	苦情解決の仕組みが確立され利用者等に周知する取り組みが行われているとともに、苦情解決の仕組みが機能している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みを説明した資料を利用者等に配布、説明しているとともに、わかりやすく説明した掲示物を掲示している。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者等に対して、苦情記入カードの配布や匿名アンケート実施など利用者や家族が苦情を申し出やすい工夫を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情を受けつけて解決を図った記録が適切に保管されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への検討内容や対応策を、利用者等に必ずフィードバックしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情を申し出た利用者等に配慮した上で、苦情内容及び解決結果等を公表している。
b)	苦情解決の仕組みが確立され利用者等に周知する取り組みが行われているが、十分に機能していない。		
c)	苦情解決の仕組みが確立していない。		
<p>苦情や悩みは、子どもたちがフリーに気持ちを書けるノートが置いてあり、職員はこのノートから情報を得ている。また、夕食はB金2人の職員が、子どもたちと同じものを食べながら話を聞き取る様にしている。</p> <p>事務分掌や運営管理規程(重要事項説明書)に、第三者委員会の設置や相談窓口の担当者が決められて掲載している。</p> <p>入居の時に重要事項説明書で分かりやすく説明している。また、日々の生活の中で子どもたちに悩み事や就活についての相談等、随時実施している</p> <p>職員は、苦情の情報は職員は共有しているが、他の子どもに漏らすことは絶対にしていない。</p>			

Ⅲ-1-(3)-③	利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	42	<input type="checkbox"/> 意見や提案を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について規定したマニュアルを整備している。 <input type="checkbox"/> 対応マニュアルに沿った取り組みがなされており、意見や提案のあった利用者等には、検討に時間がかかる場合も状況を速やかに報告している。 <input type="checkbox"/> 対応マニュアルの定期的な見直しを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 意見等を福祉サービスの改善に反映している。	<p>対応マニュアルは作成していない。</p> <p>子どもたちとの日々の生活の中で、意見や要望、希望を聞き出して、出来ることはすぐ叶えるようにしている。予算等を伴うことは、運営委員会等で話し合いをしている。</p>
a)	利用者等からの意見等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。			
b)	利用者等からの意見等に対する対応マニュアルを整備しているが、迅速に対応していない。	○		
c)	利用者等からの意見等に対する対応マニュアルを整備していない。			

Ⅲ-2 サービスの質の確保

【Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。】				
Ⅲ-2-(1)-①	サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	43	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準に基づいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価に関する担当者が設置されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、組織として定められ実行されている。	<p>県が行っている第三者サービス評価や外部評価の調査員として活躍していた人が3人職員にいます。社会的養護の施設は3年に1回第三者評価を受けることを義務化された。が、自立援助ホームは、当面、毎年自己評価をすればよいとされている。</p> <p>自己評価を、外部の評価調査員に審査チェックしてもらっている。</p> <p>評価結果は、職員に回覧し、質の向上やサービス支援の改善につなげている。</p>
a)	サービス内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制が整備され機能している。			
b)	サービス内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制が整備されているが、十分に機能していない。	○		
c)	サービス内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制が整備されていない。			
Ⅲ-2-(1)-②	評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施している。	44	<input checked="" type="checkbox"/> 職員の参画により評価結果の分析を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 分析した結果やそれに基づく課題が文書化されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。 <input checked="" type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善実施計画を策定する仕組みがある。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策や改善実施計画の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて計画の見直しを行っている。	<p>これが最良の支援だという仕組みや基準はないが、少しでも良質の支援を子どもたちにするために、日々、気づいた点や改善を図ることを全員で話し合っている。</p> <p>自己評価を、外部の評価機関に審査・チェックしてもらっている。評価結果をミーティングなどで報告し、指摘された項目を中心に改善を図っている。</p> <p>サービスの質の向上については、日々の生活の中で、子どもたちに対して接しながら、職員がお互いを見ながら中止し合っている。</p>
a)	評価結果を分析し、明確になった組織として取り組むべき課題について、改善策や改善実施計画を立て実施している。	○		
b)	評価結果を分析し、明確になった組織として取り組むべき課題を明確にしているが、改善策や改善実施計画を立て実施するまでは至っていない。			
c)	評価結果を分析し、組織として取り組むべき課題を明確にしていない。			

【Ⅲ-2-(2) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。】			
Ⅲ-2-(2)-①	提供するサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	45	
a)	提供するサービスについて、標準的な実施方法が文書化され、それに基づいたサービスが実施されている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。 <input checked="" type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、利用者尊重やプライバシー保護の姿勢が明示されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 標準的な実施方法に基づいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。
b)	提供するサービスについて、標準的な実施方法が文書化されているが、それに基づいたサービスの実施が十分ではない。		
c)	提供するサービスについて、標準的な実施方法が文書化されていない。		
Ⅲ-2-(2)-②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立されている。	46	
a)	標準的な実施方法について定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、仕組みに従って検証・見直しを行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> サービスの標準的な実施方法の見直しに関する時期やその方法が組織で定められている。 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しにあたり、職員や利用者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。
b)	標準的な実施方法について定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定めているが、検証・見直しが十分ではない。		
c)	標準的な実施方法について、組織的な検証・見直しの仕組みを定めず、定期的な検証をしていない。		
【Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。】			
Ⅲ-2-(3)-①	利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	47	
a)	利用者一人ひとりのサービス実施計画の実施状況が適切に記録されている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> サービス実施計画に基づくサービスが実施されていることを記録により確認することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差違が生じないように、記録要領の作成や職員への指導などの工夫をしている。
b)	利用者一人ひとりのサービス実施計画の実施状況が記録されているが、十分ではない。		
c)	利用者一人ひとりのサービス実施計画の実施状況が記録されていない。		
Ⅲ-2-(3)-②	利用者に関する記録・データを含めた個人情報の管理体制が確立している。	48	
a)	利用者に関する記録・データを含めた個人情報の管理について規程が定められ、適切に管理が行われている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 個人情報管理の責任者を設置している。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の記録・データの保管、保存、廃棄に関する規程等を定めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者や家族等から情報の開示を求められた場合に関する規程を定めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者を含めた個人情報保護と開示の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。
b)	利用者に関する記録・データを含めた個人情報の管理について規程が定められ、適切に管理が行われているが、十分ではない。		
c)	利用者に関する記録・データを含めた個人情報の管理について規程が定められていない。		

入居している子どもたちは、帰る家がないことや、両親に養育することができない子どもたちで、全員が愛着障害を持っている。その子供たちをいかに家庭的な雰囲気の中で愛情を持って寄り添いながら、日々の生活を支援してかが、最も大切と職員は考えている。日常生活や社会生活の指導、就活の手伝いをしながら、子どもたちの成長を見守っている。

職員は自分の子どもとして、同じように愛情を持って接している。

毎年、数か所の他の自立援助ホームを見学し、その自立援助ホームの運営やサービス支援の良いことを学んで、自分たちの行っていることを見直しに繋げている。

全国自立援助ホーム会長会、全国自立援助ホーム協議会大会、自立援助ホーム女性スタッフ会議など毎回参加し、交流会などを通じて、他の自立援助ホームの良いところを吸収している。

自己評価で日々の支援の気づきを、ミーティングで改善に向けた話し合いを持っている。

ミーティングで、日常生活や就業について話し合い、個人の記録として残している。また、週の支援方針、月の方針・方法等も決定し、記録に残している。

業務日誌で子どもたち一人ひとりのその日の状況を書き込んでいる。

記録はすべて綴じてあり、いつでも振り返りや確認ができるようにしてある。

毎日、連絡ノート（申し送りノート）に子どもたちの暮らしの状況や連絡事項等、書き込んであり、職員全員が共有できるようになっている。

事務記録のファイルは、管理者責任の基、鍵のかかる保管庫や事務倉庫で保管している。

永久保存、5年間の保存、2年間保存など分別して保管してある。

子どもたち一人ひとりにボックスがあり、保険証や預金通帳、本人の重要書類等が保管している。（これらは全て、鍵のかかるロッカーの中で更に特定の金庫に保管してある。）

プライバシー（個人情報保護法）について、会議棟で常に周知している。

Ⅲ-2-(3)-③	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	49		
a)	利用者の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取り組みが行われている。	○	<input checked="" type="checkbox"/>	組織における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。
b)	利用者の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取り組みが行われているが、十分ではない。		<input checked="" type="checkbox"/>	情報共有を目的として、ケアカンファレンスの定期的な開催等、部門横断での取り組みがなされている。
c)	利用者の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取り組みが行われていない。			

業務日誌は職員全員で入力している。
 毎日起こる事柄については、連絡ノートで職員間で共有が図られている。
 連絡一トは必見で、読み終わった職員はサインしている。
 ミーティングでは、議題や話題等を記した用紙を全員に配布し、重要な事柄はメモをすることになっている。

Ⅲ-3 サービスの開始・継続

【Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。】				
Ⅲ-3-(1)-①	利用者希望に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	50		
a)	利用希望者がサービスを選択するために必要な情報を積極的に提供している。	○	<input checked="" type="checkbox"/>	インターネットを利用して、組織を紹介したホームページを作成し公開している。
b)	利用希望者がサービスを選択するために必要な情報を提供しているが、十分ではない。		<input checked="" type="checkbox"/>	理念や実施する福祉サービスの内容を紹介した資料を、公共施設等多数の人が手にすることができる場所に置いている。
c)	利用希望者がサービスを選択するために必要な情報を提供していない。		<input checked="" type="checkbox"/>	事業所を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。 見学、体験入所、一日利用等の希望に対応している。
Ⅲ-3-(1)-②	サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	51		
a)	サービス開始の同意を得るにあたり、組織が定める様式に基づき利用者等にわかりやすく説明を行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/>	サービス開始自家用時にサービス内容や料金等が具体的に記載された重要事項説明書等の資料を用意して、利用者等に説明している。
b)	サービス開始の同意を得るにあたり、組織が定める様式に基づき利用者等に説明を行っているが、十分ではない。		<input checked="" type="checkbox"/>	説明にあたっては、利用者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。
c)	サービス開始時の同意を得るにあたり、組織が定める様式に基づき利用者等に説明を行っていない。		<input checked="" type="checkbox"/>	サービス開始時には、サービスの内容や料金等について、利用者等の同意を得た上でその内容を書面で残している。 利用契約が必要な場合は、必ず契約書を取り交わしている。
			<input checked="" type="checkbox"/>	重要事項説明書等の資料や契約書の内容は、利用者にもわかりやすいように工夫している。
【Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。】				
Ⅲ-3-(2)-①	事業所の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	52		
a)	サービスの内容や事業所の変更、地域生活への移行等にあたり、サービスの継続性に配慮している。	○	<input checked="" type="checkbox"/>	他の事業所や地域生活への移行にあたり、サービスの継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。
b)	サービスの内容や事業所の変更、地域生活への移行等にあたり、サービスの継続性に配慮しているが、十分ではない。		<input checked="" type="checkbox"/>	サービスが終了した後も、利用者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。
c)	サービスの内容や事業所の変更、地域生活への移行等にあたり、サービスの継続性に配慮していない。		<input checked="" type="checkbox"/>	サービス終了時に、利用者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。

母体である、社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会はホームページを開設して、PRを図っている。
 Ohanaの家は、自立援助ホームの性格から、パンフレットや重要事項説明書に、住所や電話番号等を掲載をしていない。
 重要事項説明書には、入居の部屋の見取り図など、障害者の利用者等にも分かりやすい説明書にしてある。
 利用者には、入居前に必ず、見学に来てもらって、本人の意思決定を以て入居契約をする。
 利用者本人に、入居前に1回以上はOhanaの家を見学してもらうことになっている。そのとき、重要事項説明書で分かりやすく説明している。
 説明資料や契約書にはレピを付けて、誰にでも読めるようにしてある。
 契約書のほか必要な同意書を取っている。
 子どもたちの中には、知的障害者や精神障害者が居るので、説明はわかりやすく、丁寧なものにしてある。
 利用料が発生するので、働くことを教え、その働いたお金で利用料等を支払うことも事例を挙げて説明をしている。

退居した子どもたちが困ったときにOhanaの家を、どれだけ頼ってくれるかが、私らの評価だと考えている。
 Ohanaの家での生活の記録は残しており、他の事業所や地域生活の移行にあたってのサービスの継続は途切れることはない。
 Ohanaの家を退居後の、相談窓口は24時間空けている。米粒が1粒もないと連絡が来れば、早速手弁当を作って持っていったり、クリスマスにはケーキを届けたりしている等常に、見守りをしている。また、今年度は8人が成人式を迎え、職員が持ち寄りの着物を着せ、アルバムにして送っている。アフターケアも、日々の支援と同じくらい大切にしている。

Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

【Ⅲ-4-（1） 利用者のアセスメントが行われている。】			
Ⅲ-4-（1）-①	定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	53	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の身体状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって把握し記録している。 <input type="checkbox"/> アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている。 <input type="checkbox"/> さまざまな職員（組織以外の関係者も）が参加して、アセスメントに関する協議を実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。
a)	利用者等の身体状況や、生活状況等を正確に把握しており、定められた手順に従ってサービス実施上の解決すべき課題（ニーズ）を具体的に明示している。	○	
b)	利用者等の身体状況や、生活状況等を正確に把握しているが、定められた手順に従ってサービス実施上の解決すべき課題（ニーズ）を十分には明示していない。		
c)	利用者等の身体状況や、生活状況等を正確に把握しておらず、定められた手順に従ってサービス実施上の解決すべき課題（ニーズ）を明示していない。		
【Ⅲ-4-（2） 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。】			
Ⅲ-4-（2）-①	サービス実施計画を適切に策定している。	54	<input checked="" type="checkbox"/> サービス実施計画策定の責任者を設置している。 <input checked="" type="checkbox"/> サービス実施計画を策定するための合議、利用者の意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> サービス実施計画どおりにサービスが行われていることを確認する仕組みが構築されるとともに、機能している。
a)	利用者一人ひとりのサービス実施計画策定のための体制が確立しており、実際に機能している。	○	
b)	利用者一人ひとりのサービス実施計画策定のための体制が確立しているが、十分に機能していない。		
c)	利用者一人ひとりのサービス実施計画策定のための体制が確立していない。		
Ⅲ-4-（2）-②	定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	55	<input checked="" type="checkbox"/> サービス実施計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、利用者等の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しによって変更したサービス実施計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> サービス実施計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。
a)	サービス実施計画について、実施状況の評価と実施計画の見直しに関する手順を組織として定めて実施している。	○	
b)	サービス実施計画について、実施状況の評価と実施計画の見直しに関する手順を組織として定めて実施しているが、十分ではない。		
c)	サービス実施計画について、実施状況の評価と実施計画の見直しに関する手順を組織として定めて実施していない。		

入居者は、各子ども相談センターからの措置となるので、アセスメント等については、児童養護施設等の記録を頂くことにしている。その経過記録で、本人に確認しながらアセスメントの記録を継続させている。

職員全員がアセスメントに関わっている。

アセスメントの定期的見直しの時期と手順は定まっていない。

APCDの手順通り、アセスメント、実施計画、実行、評価を繰り返して行っている。

アセスメントは、常に子どもたちと話す機会を持ち、本人が希望していること、自分の将来について、自立した時の社会生活の厳しさ、楽しさの指導等、本院がやりたいこと、進む方向など、話し合いながら本人の意向の把握に努めている。

ミーティングで子どもたちの1週間の様子等話をしており、支援の方針が見直しするか、継続するを決定している。

子どもたちの様子は、どの職員でも気軽に話しかけやミーティングや連絡ノートで情報収集を行い、実施計画の見直しに繋がっている。

ミーティングは全職員が参加している。そこで、実施系かう乃通り遂行しているか等、協議し、やれてない事項については聖俗都市、達成した項目については、新たな支線計画を追加する。

A-1 利用者の尊重

【A-1-（1） 利用者の尊重】			
A-1-（1）-①	入居に際して、ホームでの生活や約束ごとを説明し、子どもたちがよく理解したうえで、自らの意思によって入居申込みができるよう配慮している。	56	
a)	入居に際して、ホームでの生活や約束ごとを説明し、子どもたちがよく理解したうえで、自らの意思によって入居申込みができるよう十分に配慮している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 入居の際に、ホームでの生活状況や約束ごとを十分に説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 説明だけでなく事前見学や体験入居等の機会を設け、子どもたちがホームでの生活状況を深く理解したうえで入居申込みができるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども自身の自己決定権を尊重している。
b)	入居に際して、ホームでの生活や約束ごとを説明し、子どもたちが理解したうえで、自らの意思によって入居申込みができるよう配慮しているが、十分ではない。		
c)	入居に際して、子どもたちが理解したうえで、自らの意思によって入居申込みができるよう配慮していない。		
A-1-（1）-②	入居に際しての約束は、子どもの自立心を育むための目的と内容で行なわれている。	57	
a)	入居に際しての約束は、子どもの自立心を育むための目的と内容で適切かつ十分に行なわれている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> ホームでの生活についての約束は、形式にこだわらず、子どもが十分に理解し納得した上で交わしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入居後においても、適時子どもと約束の内容について確認している。 <input checked="" type="checkbox"/> この約束は「子どもの自立心を育むため」のものであり、約束を守れなかった時にペナルティーを科すような内容としていない。
b)	入居に際しての約束は、子どもの自立心を育むための目的と内容で行なわれているが、十分ではない。		
c)	入居に際して、約束を交わしていない。		
A-1-（1）-③	ホームの行なう援助を説明し、子どもが援助内容を決定するプロセスに主体的に参加できるようにしている。	58	
a)	ホームの行なう援助を説明し、子どもが援助内容を決定するプロセスに主体的に参加できるようにしている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> ホームの提供する援助内容・方法について事前に子どもに十分説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもに必要な情報を提供し、子どもが主体的に選択できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの発達段階や能力に応じて自己決定できる力量の形成に取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの自己決定の重要性について職員全員が十分認識している。
b)	ホームの行なう援助を説明しているが、子どもが援助内容を決定するプロセスに主体的に参加できるようにしているが、十分ではない。		
c)	ホームの行なう援助内容についてを説明していない。		
A-1-（1）-④	職員との緊密な関係を通し子どもの自尊心が育まれるよう支援している。	59	
a)	職員との緊密な関係を通し子どもの自尊心が育まれるよう具体的に支援している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得する等良好な人間関係を築くために、職員と子どもとが個別的にふれあう時間を確保している。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は、子どもから信頼感を持たれるよう、子どもの抱えているさまざまな問題・課題を含めて子どもを理解するよう意識的に努力している。 <input checked="" type="checkbox"/> 喧嘩など子どもの間でトラブルが生じた時、基本的には子ども同士で関係を修復できるように支援している。
b)	職員との緊密な関係を通し子どもの自尊心が育まれるよう支援しているが、十分ではない。		
c)	子どもの自尊心が育まれるよう支援していない。		

社会的養護の理念：①子どもの最善の利益のために ②すべての子どもを社会全体で育む。
 児童福祉法第1条：すべて児童は等しくその生活が保障されて愛護されなければならない。
 児童憲章：①児童は人として尊ばれる。②児童は社会の一員として重んぜられる。③児童はよい環境の中で育てられる。

上記の理念を理解し、子どもたち本位の支援をしている。自己決定についても、職員は日々子どもたちの決定を尊重している。

Ohanaでのルールは食堂の掲示板に貼ったり、冷蔵庫のドアに掲示して、守る様に促している。

Ohanaの家は、生活は自由である。ただし、門限は22時、外出は市内はいつでも出られるが、市外に行くときは外出届を提出することになっている。外泊は、入居から1か月たないと認めず、また、家族の所は良いが、友達の所は、その友達をOhanaの職員に紹介しなければならないこととしている。この人ならばと認める人しか外泊は認めないこととしている。

管理者は、Ohanaの家に居る時に、問題を起こすことをいつも子供に伝えている。Ohanaの家では職員が関わり解決できるからである。本人と失敗について話し合いができ、今後に生かすことが出来る。退居してから問題を起こすとOhanaの家にいるときの様に対応できなくなる。

入居する子どもたちに一番、多く説明することは、利用料の支払いについてである。所持金の持ち合わせのある子どもも、お金がない子どもにも納得いくまで説明を繰り返す。そして就活に向けた指導をする。

子どもたちの間で、働かざる者は食うべからずと言った風潮があり、他の子どもが働いているのに、自分だけ遊んで居られないと就活に勤しむ子どもが居る。

就活の情報を子どもたちに見せ、或いはハローワークに連れ行き1日も早く職場につかせるように指導している。

子どもたちは、Ohanaの家に入れられた感があり、なかなか心を開いてはくれない。職員は時間をかけて信頼関係を築くことに努力を惜しまない。

信頼関係の構築については、職員は今までの経験を活かして、子どもに寄り添い焦らず、あきらめず、じっくりと待つことを大切にしている。

愛着障害の子どもたちばかりで、少しでも愛が欲しいので、子どもたちから頼ってくるのを待って、優しく穏やかに、ゆっくりと接して信頼構築の初めとしている。

A-1-(1)-⑤	本人に出生や生い立ち、家族の状況等を伝える場合には、本人が理解できるよう配慮している。	60	<input checked="" type="checkbox"/> 可能な限り事実を伝えようと努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、子どもの理解力や心理状況等を考慮し、丁寧に対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 伝え方や内容等について職員会議等で確認し、職員間で共有している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもが自分自身や家族のことを知ることで強い心理的苦痛を持つ場合があることを十分に認識し、子どもがその情報を整理できるよう、十分なケアを提供している。	<p>Ohanaの家に入居している子どもたちは、すべて家族から虐待を受けている。家族との接点が薄い中、子どもたちは、家に帰りたくないほど、母親を嫌い、父親とは口も利き来たくないと話している。そのことを踏まえ、一人で自立していればよいが、家族のもとへ帰れるよう家族関係の修復を踏まえた試みを考えている。</p> <p>しかし、職員が何ほ愛情をこめて接していても、携帯を持つとあれだけ嫌っていた母親と必ず、内緒で連絡を取るようになるから不思議である。血の濃さには勝てないことがよく分かった。</p>
a)	本人に出生や生い立ち、家族の状況等を伝える場合には、本人が理解できるよう十分に配慮をしている。	○		
b)	本人に出生や生い立ち、家族の状況等を伝える場合には、本人が理解できるよう配慮しているが、十分ではない。			
c)	本人に出生や生い立ち、家族の状況等を伝えることが必要な場合でも、伝えていない。			
A-1-(1)-⑥	体罰を行わないよう徹底している。	61	<input checked="" type="checkbox"/> 体罰の禁止を職員に徹底するため、日常的に会議等で体罰を取り上げ、行われていないことを確認している。 <input checked="" type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰の禁止を明記している。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員による体罰の禁止について、子どもや保護者に周知している。 <input checked="" type="checkbox"/> 具体的な例を示して体罰を禁止している。	<p>児童虐待防止法の制定を職員全員で理解し合い、体罰は勿論、虐待は絶対に行わないことを決め、みんなで確認し合っている。</p> <p>Ohanaの家の子どもたちは、すべて虐待を受けている。その悲しさや苦しさは、計り知れない。その子どもたちに体罰を加えることは絶対にしてはならないと、職員間で話し合い、お互いに監視をしている。</p> <p>Ohanaの家では、生活がどんなに悪びれていても、体罰を与えたことは一度もない。</p> <p>Ohanaの家で生活している間は、安心、安全は生活をし、職員は常に優しい気持ちで接している。</p>
a)	体罰を行わないよう徹底している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 体罰の起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、体罰を伴わない援助方法を習得できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 体罰があった場合を想定し、管理者が職員・子ども双方にその原因や体罰の方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うしくみがつくられている。	
b)	—		<input checked="" type="checkbox"/> 自傷行為や他者への加害行為を阻止するための方法について検討し、適切に対応している。	
c)	体罰を行わないための取り組みが十分ではない。			
A-1-(1)-⑦	不適切な関わりの防止と早期発見に取り組んでいる。	62	<input checked="" type="checkbox"/> 研修などを通し、言葉による暴力や人格的等め、無視、脅し等の心理的虐待、セクシャルハラスメント等不適切な関わりが子どもにどのような心理的ダメージを与えるかを職員が十分に認識できるよう取り組み、その防止を職員に徹底している。 <input checked="" type="checkbox"/> 不適切な関わりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員の不適切な関わりがあった場合、子どもが内外に報告できる仕組みが整っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 不適切な関わりに迅速に対応できるように、子どもからの訴えやサインを見逃さないよう留意している。 <input checked="" type="checkbox"/> 不適切な関わりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	
a)	不適切な関わりの防止と早期発見に具体的に取り組んでいる。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 不適切な関わりの起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、これによらない援助のあり方を習得できるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 不適切な関わりの防止の観点から、職員体制（配置や担当の見直し等）を検討している。 <input checked="" type="checkbox"/> 不適切な関わりの防止の観点から、密室・死角等の建物構造の点検と改善を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 不適切な関わりを発見した場合は記録し、必ず管理者等に報告することが明文化されている。	<p>Ohanaの家の子どもたちは、親から虐待を受ける等、深く愛されることや褒められることがなく育ってきた。そのことを職員全員が認識しており、施設内では、虐待、体罰は絶対にしない。障害にある子どもたちに愛されることの意義を伝え、肌で感じ取ってもらえる支援続けている。</p> <p>Ohanaの家は、ホーム長が子どもたちとの関わりにおいて、長い経験があり他の職員の模範となっている。</p> <p>職員は、入居してくる子どもたちに対して、一人一人の人格を尊重し、尊厳を持った接し方をしている。</p> <p>全職員が公平、中立な心でサービスの提供をしている。誰かに偏った接し方をしているなど、ミーティングで指摘仕合い「、お互いが確認し合っている。</p> <p>事例として、タバコを吸っていることが発見された時も、職員一人が子どもと関わることはせず、必ず、2人以上の職員で関わることにしている。</p>
b)	不適切な関わりの防止と早期発見に具体的に取り組んでいるが、十分でない。		<input checked="" type="checkbox"/> 不適切な関わりがあった場合を想定し、管理者が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつくられている。	<p>連絡ノートを利用し、あらゆることに、解決の方向性を職員で話し合っ、ベストの対応をしている。</p>
c)	不適切な関わりの防止と早期発見に取り組んでいない。			

A-1-(1)-⑧	子どもや保護者の思想や信教の自由は、他の子どもや保護者の権利を妨げない範囲で保障されている。	63	<input checked="" type="checkbox"/> ホームにおいて宗教的活動を強要していない。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもと保護者の個別的な宗教活動は尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもや保護者の宗教的活動において他の子どもや保護者の権利を妨げないように配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 保護者の宗教的活動によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	<p>Ohanaの家は、宗教活動をする事は禁じている。本人がどの宗教を信じているかは自由である。本人の権利を尊重している。</p> <p>今まで、子どもたちが宗教活動で問題になったことは一度もない。</p> <p>職員は「宗教の自由」を認識している。</p>
a)	子どもや保護者の思想や信教の自由は保障されている。	○		
b)	—			
c)	子どもや保護者の思想や信教の自由が尊重していない。			

A-2 日常生活支援サービス

【A-2-(1) 援助の基本】				
A-2-(1)-①	子どもと職員の信頼関係を構築するために、受容的・支持的な関わりを行っている。	64	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもに対する受容的・支持的関わりを心がけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの視点に立って、個々の子どもの気持ちを汲み取っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員と子どもが個別的に関わりを持つ時間を確保している。 <input checked="" type="checkbox"/> 小集団での養育が行われている。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもが相談しやすいような働きかけを意識的に行っている。	<p>障害者を含む社会的養護の子どもたちの支援の基本は、受容であることを職員全員、認識をしている。愛情を以て、優しく寄り添う支援は話すまでもない</p> <p>生活のリズムを壊している子どもには、特に注意して話を聞くことにして、1日も早く安定した生活が戻るような支援をしようとする。</p> <p>Ohanaの家のモットーは、①働くこと（利用費を支払うため）②決められた約束事を守ること（門限22:00等）その他は自由である。日々の生活や社会生活等についてはその都度指導している。（特に性教育については妊娠しない様に、感染症にならないよう注意を促している。）</p>
a)	子どもと職員の信頼関係を構築するために、受容的・支持的な関わりを積極的に行っている。	○		
b)	子どもと職員の信頼関係を構築するために、受容的・支持的な関わりを行っているが、十分ではない。			
c)	子どもと職員の信頼関係構築を意図した、受容的・支持的な関わりを行っていない。			
A-2-(1)-②	子どもの発達段階や課題に考慮した援助を行っている。	65	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもに問題行動等があった場合、単にその行為を取りあげて制限するのではなく、背景にある心理的な問題の理解に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの生活を束縛するような管理や操作をしていない。	<p>問題行動があったときは、そのことで子供を責めることはしていない。何が要因であったか調査し、問題解決に向けて、子どもと一緒に考える。</p> <p>問題行動となった要因を、分析し解決策を見出している。</p> <p>管理者は、Ohanaの家に居る時に多くの問題を起こすようにと言っている。Ohanaで起きた問題は、職員全員で解決できるからである。</p>
a)	子どもの発達段階や課題に考慮した援助を常に行っている。	○		
b)	子どもの発達段階や課題に考慮した援助を行っているが、十分ではない。			
c)	子どもの発達段階や課題に考慮した援助を行っていない。			
A-2-(1)-③	あらゆる社会資源と連携しながら、子どもの自立を支援するためのソーシャルワークを行なっている。	66	<input checked="" type="checkbox"/> 入居した後も継続したアセスメントを行い、必要に応じて関係諸機関と連携しながら子どもの自立を支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 支援計画（ケアプラン）を他機関との連携を基に作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもに関係諸機関との連携の必要性を理解できるように説明し、子どもが納得したうえで連携を取っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日ごろから関係諸機関との関係づくりを心がけている。	<p>年に3回、県内の各子相と連絡会議を開催されており、Ohanaの家や各子相が集まり、子どもたちの近況を報告し助言を貰っている。</p> <p>県子ども家庭課とは措置費の請求時に連絡を行っている。</p> <p>司法関係の子どもを預かっており、裁判官、調査員、保護司等の連絡を密にしている。</p> <p>就活に関しては、ハローワーク、派遣業者、市内の優良企業等々と連絡を取りながら進めている。</p>
a)	あらゆる社会資源と連携しながら、子どもの自立を支援するためのソーシャルワークを適切に行なっている。	○		
b)	あらゆる社会資源と連携しながら、子どもの自立を支援するためのソーシャルワークを行なっているが、十分ではない。			
c)	社会資源と連携した、子どもの自立を支援するためのソーシャルワークは行なっていない。			

【A-2-(2) 食生活】				
A-2-(2)-①	バランスのとれた食事に配慮し、食卓が安心感を得ることのできる場所となるよう配慮している。	67	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。 <input checked="" type="checkbox"/> 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員や他の子どもと楽しく対話ができる場所となるよう工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫等、食事を美味しく食べられるように工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの個人差や子どもの体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供している。 <input checked="" type="checkbox"/> 好き嫌いをなくす工夫や偏食指導については、無理がないよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員や他の子どもと楽しく会話できる環境を整えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が日常的に、調理技術の向上や献立の多様化の努めている。 	<p>理事長が、子どもたちは成長期にあるので、食事はできるだけ良いもの。食材を惜しむなど常に言っている。</p> <p>子どもたちに今日は何を食べたい等、希望を聞きながらリクエストの合わせた調理もしている。現代風の料理に偏ることなく、昔からある田舎料理所謂、家庭料理も提供している。</p> <p>職時間は、特に決められていない。子どもたちは働いているので、働く時間によって、朝、早い子どももいるし、夜も多い子どもに合わせて食事を摂らせている。</p> <p>昨夜作った食事を、次の日に食べさせることはしていない。</p> <p>子どもの入居時に、アレルギーがあるかどうか、また、好き嫌い等を聞いて対処している。</p>
a)	バランスのとれた食事に配慮し、食卓が安心感を得ることのできる場所となるよう具体的に配慮している。	○		
b)	バランスのとれた食事に配慮し、食卓が安心感を得ることのできる場所となるよう配慮しているが、十分ではない。			
c)	食卓が安心感を得ることのできる場所となるよう配慮していない。			
A-2-(2)-②	子どもの生活時間にあわせた食事の時間を設定している。	68	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 朝食、昼食、夕食それぞれの食事時間が子どもの基本的な生活習慣の確立につながるよう設定している。 <input checked="" type="checkbox"/> 学校や就労状況など子どもの生活時間に応じて、食事の時間以外の時間でも個別に対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 電子レンジや冷蔵庫等を用意し、食事の時間以外にもおいしく食べられるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもが一人だけで食卓につくといったことがないよう配慮している。 	<p>子どもたち一人ひとりの、生活リズムが違うので、食事時間は決めておらず、主に働く時間に合わせて食事をしている。</p> <p>電子レンジや冷蔵庫等自由に使用することができる。が殆ど職員が、遅く帰ってきた子どもに対して対応している。</p> <p>働くことを最優先にしており、朝早くから昼までの子、通常の時間の子、夕方から21時頃まで働く子など、その子その子に合わせて時間に食事がとれるようにしている。</p>
a)	子どもの生活時間にあわせた食事の時間を設定している。	○		
b)	—			
c)	子どもの生活時間にあわせた食事の時間を設定していない。			
【A-2-(3) 衣生活】				
A-2-(3)-①	衣服は清潔で、TPOに応じたふさわしい服装となるよう助言している。	69	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 衣服は常に清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用するよう助言している。 <input checked="" type="checkbox"/> 年齢に応じて、TPOに合わせた服装ができるよう助言している。 <input checked="" type="checkbox"/> 下着を毎日取り替えることや、汚れた時などの着替えについて助言している。 	<p>着のみ着のまま入居する子どもが多く、常に要らなくなった服や肌着(新品)等ストックしてあり、子どもに選ばしている。</p> <p>洗濯もせず、汚れたものを着ている子どもには、注意をするとともに、洗濯を手伝っている。</p> <p>毎週、各部屋に掃除に入るので、貯まった洗濯物があるときは注意をする。</p>
a)	衣服は清潔で、TPOに応じた服装となるよう助言している。	○		
b)	—			
c)	衣服の清潔や服装について助言していない。			
【A-2-(4) 住生活】				
A-2-(4)-①	ホーム全体は、生活の場としての安全性や快適さを配慮したものになっている。	70	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 子どもが小集団で快適に生活できる環境づくりに配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を設置している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもが私物を収納できるよう、個々にロッカー、タンス等を整備している。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常的な清掃や大掃除を行い、軽度な修繕を迅速に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> くつろげる空間を確保するように努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じて、入浴やシャワーが利用できるようにしている。 	<p>食堂、共有ルームに大型テレビがあり、ブルーレイで録画を楽しんでいる。パソコンもあり、音楽の配信やゲームをやっている。気の合う子供や合わない子どもも別々で固まることできる。</p> <p>全室個室で、エアコンなど完備してある。また、2人の専用のキッチンと風呂、トイレがある。また、冷蔵庫やオーブン、IHコンロ等も備えてある。</p> <p>全室施錠で来て、プライバシーが保持できるようになっている。</p>
a)	ホーム全体は、生活の場としての安全性や快適さを十分配慮したものになっている。	○		
b)	ホーム全体は、生活の場としての安全性や快適さを配慮しているが、十分でない。			
c)	ホーム全体は、生活の場としての安全性や快適さが欠けている。			
A-2-(4)-②	居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身に付けられるよう援助している。	71	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 居室の整理・整頓、掃除の習慣を身に付けられるよう援助・指導している。 	<p>掃除、洗濯、居室の整理整頓等については、随時、注意指導を行っている。職員と一緒に手伝うこともある。</p> <p>キッチン、風呂、トイレの清掃を毎週、木曜日に女子職員が行っている。</p> <p>各個人の部屋も了解を得たうえで入り、整理整頓を指導している。</p>
a)	居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身に付けられるよう子どもの状況に応じて援助している。	○		
b)	—			

c) 居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身に付けられるよう援助していない。			
--------------------------------------	--	--	--

【A-2-(5) 衛生管理、健康管理、安全管理】			
A-2-(5)-①	身体を自己管理できるよう援助している。	72	<input checked="" type="checkbox"/> 職員は、子どもの健康状態や、睡眠や食事などの生活状況を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> うがいや手洗いの習慣が身に付くように援助・指導している。
a)	身体を自己管理できるよう子どもの状況に応じ具体的に援助している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類等を清潔に保つ等、健康管理ができるよう援助・指導している。 <input checked="" type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、爪きり等身だしなみについて、自ら行えるよう援助・援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための援助・指導している。
b)	身体を自己管理できるよう援助しているが、十分でない。		<input checked="" type="checkbox"/> ひげそり、カミソリ等感染のもととなる物は自分のものを使うよう援助・指導している。
c)	身体を自己管理できるよう援助していない。		

業務日誌の記録や勤務予定表、週間予定表等により、勤務状況や欠勤状況などを把握し。子どもたちの体調等についての記録を職員が共有できている。

職員は、日々の生活の中で子どもたちの顔色や食事のとり方等で、チェックし、子どもたちの訴え等に注意し、記録している。。

また、生理の状況等や性交渉に際して避妊具や避妊の仕方等、易しく丁寧に指導している。

病気にかかったときは、直ぐに主治医に診せている。予防についてもうるさいほど子どもたちに話をしている。

A-2-(5)-②	一人ひとりの子どもの健康を管理するとともに、必要な場合には医療機関等を利用するなど適切に対応している。	73	子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察している。	入居時にアセスメントで病歴や生育歴、アレルギー等をチェックし、職員が共有している。
a)	一人ひとりの子どもの心身の健康を管理するとともに、必要な場合には医療機関等を利用するなど適切に対応している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して話しあいや情報共有などを行い、知識を深める努力をしている。	緊急時の常備薬を備えており、子どもたちの訴えに応えるようにしている。また、医者との診療が必要と思った時は、速やかに主治医に診せ、診断を仰いでいる。
b)	一人ひとりの子どもの心身の健康を管理するとともに、必要な場合には医療機関等を利用するなど対応しているが、十分でない。		<input checked="" type="checkbox"/> 服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬を確かめている。	業務日誌や連絡ノートの記録で、子どもたちの様子を観測している。
c)	一人ひとりの子どもの心身の健康管理が行われていない。		<input checked="" type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心身の健康に関する問題対応のために、精神科を含む特定の医療機関と連携がとれるようにしている。	服薬については、子どもたちの状態を良く、知ったうえで職員が対応している。
【A-2-(6) 問題行動に対する対応】				
A-2-(6)-①	子どもの問題行動に適切に対応し、その理由を子どもに分かるよう説明している。	74	<input checked="" type="checkbox"/> 問題行動のある子どもについて、あらかじめ職員間で情報を共有し、連携して対応できるようにしている。	毎週ミーティングを開催しており、一人一人の支援方針を決めている。
a)	子どもの問題行動（暴力、不適応行動等）に適切に対応し、その理由が子どもに分かるよう十分説明している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 問題行動のある子どもの問題となる行動を観察・記録し、誘因や刺激、人的・物的環境との因果関係を分析している。	管理者は、子どもたちの安全・安心を最優先課題としている。問題行動について常々、Ohanaの家にいる時に問題を起こすのは構わないと言っている。Ohanaに居る時に起きた問題は、事例も経験もあり、職員全員で解決できる。しかし、退居語に問題行動が起きたときは、離れている機関があり、対処しにくくなる。だから問題は起きない方がよいが、Ohanaの家に居る時に問題を起こすようにと考えている。
b)	子どもの問題行動（暴力、不適応行動等）に適切に対応し、その理由を子どもに分かるよう説明しているが、十分ではない。		<input checked="" type="checkbox"/> 職員の研修等を行い、問題行動に対して適切な援助ができるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 問題行動に対して、子どもの心身を傷つけずに対応するための体制を整えている。	問題行動の要因は、とことん聞き出し、次に起きないように対策を考える。
c)	子どもの問題行動（暴力、不適応行動等）に適切に対応していない。		<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じ、児童相談所、司法機関、専門医療機関等と協力し、対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	必要に応じ、最寄りの交番や警察に連絡して来てもらう。（定期的に、交番が立ち寄ってくれる）
A-2-(6)-②	ホーム内の子ども間の暴力、いじめ、差別等が生じないようホーム全体に徹底している。	75	<input checked="" type="checkbox"/> 職員は、日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範を示している。 <input checked="" type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。	Ohanaの家は、女児の自立援助ホームで定員は暫定で12人である。子どもたちの入居が少ないときはさほどでもないが、多くなれば、女児特有の作用が働き、あちこちでグループができ、敵対心が現れる。
a)	子ども間の暴力、いじめ、差別等が生じないようホーム全体に十分に徹底している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、ホーム内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検している。	職員は、グループ同士の争いが起こらないように注意深く、見守っている。
b)	子ども間の暴力、いじめ、差別等が生じないよう徹底しているが、十分でない。		<input checked="" type="checkbox"/> 課題がある子ども、入所間もない子どもの場合は観察を密にし、個別援助を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、管理者が中心になり、全職員が適切に対応できる体制になっている。	今までは、暴力事件やいじめ、虐待等はない。職員は毎週行われるミーティングや連絡ノートで逐次、子どもたちの様子を確認して、戦いや争いを未然に防ぐように対応している。
c)	子ども間の暴力、いじめ、差別等が生じないよう徹底していない。		<input checked="" type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が困難と判断した場合には、児童相談所、司法機関等に協力を要請するようにしている。	

【A-2-(7) 自主性、自律性を尊重した日常生活】				
A-2-(7)-①	子ども自身が自らの生活全般について考え、主体性をもって生活ができるよう援助している。	76	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども自身が自らの生活全般について、自主的・主体的な取り組みができるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの自己肯定感、自己表現力などが育つよう配慮している。	15歳や16歳で入居してくる子どもたち、職員の立場で考えると自分の子どもであれば、ちょうど高校生活をしている頃であり、自由気ままな生活をさせているのに、Ohanaの子どもたちは、利用料を払う為に、働かざるを得ないのである。帰る家がない子どもたちが殆どなので、Ohanaの家を退居すると、日常生活、地域社会生活をその日から行わなければならない。そのために継続して働くことや日常生活(掃除・洗濯・食事・育児等)及び社会生活(礼儀作法、税金の支払い等、指導を日々行っている。 退居に向けての相談は、管理者をはじめ職員全員で対処することになっている。
a)	子ども自身が自らの生活全般について考え、主体性をもって生活ができるよう適切に援助している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 子ども一人ひとりが失敗する権利を持っているということを認識しながら援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 目標実現に向かって発展していけるよう、子どもの主体性を尊重しつつ、過保護にならないよう援助している。	
b)	子ども自身が自らの生活全般について考え、主体性をもって生活ができるよう援助しているが、十分ではない。			
c)	子ども自身が自らの生活全般について考え、主体性をもって生活ができるよう援助していない。			
A-2-(7)-②	休日等に子どもが自由に過ごせるよう配慮している。	77	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの興味や趣味に合わせて、自発的活動ができるよう配慮している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子ども(外国籍の子ども等)の生活文化を保障し、自由に活動ができるようにしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもが外部のサークル活動やレクリエーション等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもの趣味に応じて、外部の文化・スポーツ活動への参加や習い事を認めている。	門限22時さえ守ってくれば、市内での買い物等、外出は自由である。市外の外出は外出届を出すことになっている。外泊は外泊届けを必ず出すことのほか、入居してから1か月間は外泊は禁じている。また、家族のもとに行くときは外泊届けだけでよいが、お友達(特に彼氏の時)の所へは、Ohanaの家の職員に彼氏を紹介することを決められており、紹介できない人には外泊は許していない。同時に彼の住所や職業、携帯電話番号を覚えてもらうことになっている。 ケキやお菓子作り等は、Ohanaの材料を使って自由にできる。 母体の社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会が毎月、開催するかみなりマーケットの催しに出かけることがある。
a)	休日等に子どもが自由に過ごせるよう配慮している。	○		
b)	—			
c)	休日等に子どもが自由に過ごせるような配慮はしていない。			
A-2-(7)-③	金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう援助している。	78	<input checked="" type="checkbox"/> 金銭の自己管理ができるよう援助している。 <input checked="" type="checkbox"/> 無駄遣いをやめ、節約したことによる効果を実感できるようなお金の使い方を勧めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 経済観念や金銭感覚が身につくよう相談・援助・指導している。 <input checked="" type="checkbox"/> 小遣いの用途については、子どもの自主性を尊重し、不必要に制約していない。 <input checked="" type="checkbox"/> 一定の生活費の範囲で生活することを学べるよう援助している。	割り算や、掛け算が出来ない子どもが多い。金銭管理は、事務局で行っている。 子どもたちは、働く前の皮算用ばかり、850円で1日7時間 月24日働くから、いくら収入があり、実際にはできない貯金がこれだけ溜まるから半年したら、Ohanaの家を出て行けると、計算は高い。 でも、現実には金銭管理をできる子どもは少ない。 Ohanaの家のルールで、入居して3ヶ月継続して働き、10万円の貯金が出来て、初めて携帯を使用できることになっている。金銭感覚が分からないが、携帯を持つためには、全員努力している。
a)	金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう子どもの状況に応じて、具体的に援助している。	○		
b)	金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう援助しているが、十分でない。			
c)	金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう援助していない。			

【A-2-(8) 社会生活支援(学習支援、進路指導等)】			
A-2-(8)-①	進学を希望する子どもには、学習環境を整備し、学力に応じた学習支援を行っている。	79	
a)	進学を希望する子どもには、学習環境を整備し、学力に応じた学習支援を行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように受験生のための環境づくり等の配慮をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 年齢や理解力に応じて、自分で学習計画が立てられる等、学習習慣が身につくよう助言している。 <input checked="" type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。
b)	進学を希望する子どもには、学習環境を整備しているが、学力に応じた学習支援は十分でない。		
c)	進学を希望する子どもに学習環境の整備や学力に応じた学習支援を行っていない。		
A-2-(8)-②	社会生活を通して、子どもが人格の尊さを学び、自分や他人の権利を尊重し、ともに生きることができるよう支援している。	80	
a)	社会生活を通して、子どもが人格の尊さを学び、自分や他人の権利を尊重し、ともに生きることができるよう積極的に支援している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの勤務先と連絡を取りあいながら見守っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職場で起こったことによく耳を傾け、必要な時には助言している。 <input checked="" type="checkbox"/> 友人や、交際相手のことで相談があった場合は、親身になって相談にのる。 <input checked="" type="checkbox"/> 機会があれば差別問題や弱者に対する考え方などの会話をしている。
b)	社会生活を通して、子どもが人格の尊さを学び、自分や他人の権利を尊重し、ともに生きることができるよう支援しているが、十分ではない。		
c)	子どもが人格の尊さを学び、自分や他人の権利を尊重し、ともに生きることができるよう支援していない。		
A-2-(8)-④	性について正しい知識を身につけ、お互いの人格を尊重しあえるような異性関係が築けるよう支援している。	81	
a)	性について正しい知識を身につけ、お互いの人格を尊重しあえるような異性関係が築けるよう積極的に支援している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 性に関する子どもの疑問や不安にこたえている。 <input checked="" type="checkbox"/> 年齢相応で健全な異性とのつきあいができるよう子どもたちに話している。 <input checked="" type="checkbox"/> 性教育のカリキュラムを用意し、正しい性知識を得る機会を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> 性教育について職員間で話し合っている。
b)	性について正しい知識を身につけ、お互いの人格を尊重しあえるような異性関係が築けるよう支援しているが、十分でない。		
c)	性について正しい知識を身につくよう支援していない。		

静かに1人で、勉強する環境は整えている。
 学校に行きたい意思のある子や高校に通っていて、そのまま施設に入居する子どもで、その後もまだ、学校を続けたい子どもはそのまま継続してもらおう。けれども、学校に通う子どもは少ない。
 殆どの子どもは、働くことを優先にしており、お金がたまったらOhanaの家を出て行こうと思っている。
 今回、大学に通う子供が入居して来る。3年の短期大学であるが、大学に通うのはOhanaの家では初めてなので、きちんと支援したい。

子どもが働いている事業所とは、いつも連絡を取り合っている。急に体の都合により休む時は、必ず、本人から事業所に休むこと連絡させている。
 子どもが也何でいるときは、職員の誰かが面談するようにしている。
 交際相手は、Ohanaの家の職員に紹介することになっている。1か月過ぎて外泊の許可を出す場合でも、彼の所へ行く場合は、彼をOhanaに連れてきて、名前、住所、職業、携帯番号等の連絡先などを聞き、連絡ノートに記録して共有している。

Ohanaの家の子どもたちは、女兒で、殆どが性虐待を受けた子どもである。また、Ohanaでの生活の中で男友達ができ、性交渉に至ることが多い。
 性に関すること例えば、避妊方法や性病、感染症については子どもと話し合い指導をしている。また、子どもの財布には常時、コンドームを3つ以上持たせている。
 中絶に関しては、母体に悪い影響を将来も続くことや、中絶の費用等を子どもたちに話している。また、職員間でもミーティングで指導について方針等を話し合っている。

【A-2-(9) メンタルヘルス】			
A-2-(9)-①	虐待を受けた子どもなど心理的ケアが必要な場合は、関係機関と連携している。	82	
a)	心理的ケアが必要な子どもには、関係機関と十分に連携している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについて、関係機関と連携した取り組みを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日常生活の中で、心理的な援助が行える体制ができている。 <input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じて臨床心理士の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員等を受けている。
b)	心理的ケアが必要な子どもには、関係機関と連携しているが、十分ではない。		
c)	心理的ケアが必要な子どもに、関係機関と連携していない。		
【A-2-(10) 家族とのつながり】			
A-2-(10)-①	児童相談所や関係機関と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり家族からの相談に応じる体制ができている。	83	
a)	児童相談所や関係機関と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり家族からの相談に応じる体制があり、機能している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 家族との関係調整については、必要に応じて児童相談所等と協議を行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> ホームと家族が信頼関係を構築できるよう努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 親との面接等を通じて家族に働きかけ、親子関係の継続や修復に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもに関する情報を家族に伝える場合には、子どもの意向を考慮して行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、家族からの不適切な関わりの発見に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもが家族との交流を望む場合、積極的に支援している。
b)	児童相談所や関係機関と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり家族からの相談に応じる体制があるが、十分ではない。		
c)	児童相談所や関係機関と連携し、相談に応じる体制ができていない。		
A-2-(10)-②	子どもにとって家族関係の調整が必要な場合は、状況を把握して、面会、外出、一時帰省などを行っている。	84	
a)	子どもにとって家族関係の調整が必要な場合は、状況を把握して、面会、外出、一時帰省などを行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅については、状況を把握したうえで実施している。 <input checked="" type="checkbox"/> 子どもが家族との交流を希望しない場合は、その意思を尊重している。 <input checked="" type="checkbox"/> 虐待を受けた子どもなど配慮が必要な子どもには、職員間で検討し、ときには児童相談所とも十分に協議し、慎重に家族関係を調整している。
b)	-		
c)	子どもにとって家族関係の調整が必要な場合でも、状況の把握および面会、外出、一時帰省などを行っていない。		
A-2-(10)-③	虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの危険性がある場合、関係諸機関との連携により、子どもの権利と安全が守られるよう取り組んでいる。	85	
a)	虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの危険性がある場合、関係諸機関との連携により、子どもの権利と安全が守られるよう取り組んでいる。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 強引な引き取りへの対応について、職員に周知徹底している。 <input checked="" type="checkbox"/> 親からの引き取りについて、児童相談所、家庭裁判所と連絡・調整し適宜対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。
b)	虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの危険性がある場合、関係諸機関との連携により、子どもの権利と安全が守られるよう取り組んでいるが、十分ではない。		
c)	保護者からの強引な引き取りの危険性がある場合でも、子どもの権利と安全が守られるよう取り組んでいない。		
【A-2-(11) 退居後の決定・退居後のかかわり】			
A-2-(11)-①	退居後の生活計画が作成され、子どもと退居後の生活を話し合った上で退居を決定している。	86	
a)	退居後の生活計画が作成され、子どもと退居後の生活を十分話し合った上で退居を決定している。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 子どもの自立への気持ちをもとに、退居にむけた取り組みを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 退居後の生活について計画を作成している。 <input checked="" type="checkbox"/> 退居後の生活について子どもと十分に話あっている。 退居後のフォローアップ体制が整えられ、子どもに提示している。
b)	退居後の生活計画が作成され、子どもと退居後の生活を話し合った上で退居を決定しているが、十分ではない。		
c)	子どもと退居後の生活を話しあわずに、退居を決定している。		

A-2-(11)-② 退居後の子どもに継続的に支援している。	87	<input checked="" type="checkbox"/> 退居後の継続的な支援の一環として、ホーム側から電話を入れたり、訪問するなどしている。	管理者は、退居者の子どもを自分の家で預かることもしばしばである。
a) 退居後の子どもに継続的に支援を適切に行っている。	○	<input checked="" type="checkbox"/> 退居後の子どもの相談などに、適時適切に応じている。	退居した子ども7~8人が、毎日ほど連絡が入る。コストコノパンやコメなどの差し入れをしながら、相談にのっている。
b) 退居後の子どもに継続的に支援しているが、十分ではない。		<input checked="" type="checkbox"/> 退居後、いつでもホームを訪れることができることを説明し、そのための受け入れ態勢をホームや職員が作っている。	職員はラインやメールに注意している。収集した情報の共有も万全である。
c) 退居後の子どもに継続的に支援していない。		<input checked="" type="checkbox"/> 子どもがホームとの関係を断ち切らない限り、ホーム側から子どもとの関係を断ち切ることはないようにしている。	今年は退居者8人が成人になり、成人式に参加するために、着物の着付けをし、写真を撮り、アルバムにして送ってあげた。